

2024年9月28日

汲温会のみなさんへ

この度の改革(女子部及び共学部の併置)について

平素は親和学園の教育及び運営にご理解とご支援を賜りまことにありがとうございます。心よりの感謝を申し上げます。

さて、今日は、このたびの親和学園創立以来の大きな改革、イノベーションと呼ぶにふさわしい変革につて、改めて説明申し上げ、ご理解を得たいと思います。

最初に、女子校としての137年の伝統を誇る親和学園に、深い愛着とアイデンティティをお持ちの同窓生の皆様に対しまして、心からのお詫びを申しあげます。まことに申し訳なく思っています。

しかし、このたびの重い重い判断は、時代の変化の中で、親和学園を生き延びさせ発展さなければならぬという意志と、親和学園を存続発展させることが、私たちにとって至上命題であり責任であるという認識とに基づく判断でございます。

生徒の減少、女子校離れ、進学率の低下、経営難、そして今後も続く少子化(現在、12歳人口は100万人を超えています、2023年の出生数は約72万人超えです。12年で約30万人の減少です。)等々、この度の改革の理由はいくつもありますが、根本的な理由は、変化の時代には「変化しなければならない」というものです。それも自ら変化に挑戦し、未来を切り拓くという哲学・思考法です。「変化は、避けられないことに巻き込まれて『起こる』ものではない。自ら困難と闘い、『起こす』ものだ。」という哲学です。

この意味において、この度の女子部と共学部の併置は、親和の未来を切り拓くための新たな学校づくりへの挑戦なのです。“turn the page!”なのです。親和に新しい歴史のページを刻むのです。この学校づくりには、教職員一同の「協働と共創」はもちろん、ぜひとも生徒・保護者及び同窓生のみなさんのご理解とご支援が必要となります。

この激しい変化の時代、想定外のことが頻繁に起こります。それでも、親和学園は、みなさんと共に、社会と共に、変化を超えて未来を切り拓いて参ります。どうぞこれまで通り、いや、これまで以上のご理解とご支援をお願い申し上げます。

学校法人親和学園
理事長 山根耕平